

1. 開催年月日 平成 26 年 11 月 14 日 (金) 13 時 30 分～15 時 00 分
2. 開催場所 岐阜県可児市広見七丁目 90 番地
株式会社ケーブルテレビ可児 会議室
3. 出席委員数 6 名 (欠席 2 名)
4. 事業者側出席者数 3 名
5. 議 題 1. 番組試聴および審議
2. 通常番組について

6. 審議内容

1. 番組試聴および審議

次の番組を試聴し、審議した。

11 月 4 日 (火) 7:20～7:40

「モーニングライン火曜日」内、コーナー「剛君の子どもばんざい」31:00

パーソナリティ：益田川剛

ゲスト：下米田小学校支援員 藤吉栄治

※自分たちのケンカで壊してしまった友だちの傘を弁償するため廃品回収の実施に奮闘した小学 3、4 年生のエピソードを、ゲストの実体験から紹介。

- ・先生が聞くと参考になる内容だが、親はどうだろうか。内容を短い時間に凝縮しているので、もっと詳しく聞きたい。
- ・短い時間では抽象的になってしまうかもしれないが、よく努力して短い時間に言いたいことをまとめている。想いがストレートに伝わるし、途中で一曲かけるなど、飽きないように全体の構成をしていると感じる。
- ・二人の声質が違って聞きやすく、明るく、おもしろい。必ずしも教育を述べなくてもいいのだというくらい、自由にやってもいいかもしれない。回数を重ねるとマンネリ化も懸念されるが、リスナー等から意見をもらいながら変化していけばよいのでは。
- ・ゲストは放送エリアで教員をしていたということなので、このエピソードの当事者や当時を知る人が地元にいるのではないか。そうした人たちにも、ぜひ話を聞いてみたいと思った。日ごろ、かつての担任の先生が現在は校長先生になっているなど、懐かしい再会をよく見かける。まだ地元に残っている先生方を集めて、昔話などを聞きかせてもらおうと、面白くて興味を持つリスナーも多いのでは。
- ・いい番組だと思う。私が住んでいる地域の教育の世界は閉ざされているイメージがあり、先生たちの生の声や本音を聞く機会がない。退職された先生が、個人情報分からない範囲で、思い出に残るエピソードを交えながら先生と生徒のつながりを話して下さるのは、親の立場では聴いていて解放感があると思う。また、この時間帯は何かをやりながら放送を聞くので、会話のテンポが聞き取りやすくよい。

- ・リスナーを増やすために特化した内容の番組を作っていきたいが、特化というと学生番組という考えがあった。学校をテーマにする上で、子どもでなく、しゃべるのが得意の先生に特化するのもリスナーがよく聴くだろうと思った。共感できる地域の話題も出るため、これからの行政番組の企画作りのヒントになった。
- ・非常におもしろかった。言葉を選びながら話しているのがわかるし、しっかり作られていて聞きやすいと思った。話題も面白く、素直に聴けた。

2. 通常番組について

通常放送番組について、自由意見を募った。

- ・モーニングライン火曜日について。パーソナリティ三人のバランスがとれてきて、可児さんの声がとても聞きやすくなった。「おでかけ大好き」コーナーの、ロケの話がおもしろい。
- ・小中学校の合唱コンクールの音声を流してほしい。体育館で親だけに聴かせるのはもったいないので、こうした題材でリスナーにアピールできるといいのでは。
- ・モーニングラインの番組でドーナツの穴がなぜあいているかの起源を説明しており、興味をもった。しかし、パーソナリティの読み方が聞きづらく、もどかしかった。読み物は練習をしてほしい。
- ・ポッドキャストは時間を選ばず聴けるのでぜひ増やしてほしい。
- ・前回の審議会で指摘された「学園ラジオ」の取り組みについて。
各高校の生徒たちに貴重な体験なのでこれからも勉強する気持ちで取り組んではどうかと伝え、意見を聞いたところ、ぜひ続けたいという意欲的な返事だった。こちらが見落とししていた番組作りについての悩みを聞くことができ、アドバイスをした。過去の録音を聞いて反省点を見つけ、各学校で改めて準備をするよう肩をたたいた。今後も成長を期待して見守りたい。
生徒たちからは、FMららで番組を放送できるのを非常に嬉しく思うとか、学校でうらやましがられるという声もあったので、若者にも参加し聞いてもらえる放送を作っていけたらと思う。
- ・技術も、ものの考え方も、校内放送よりも一段高いレベルのチャレンジをしてもらっているという意識をよく解ってもらえたらとても良いですね。

以上の意見が出され、全員承知した。